

【 復活のトロパリ 第1調 】

きゆ うせ え いしゆよ、 イウ デ ヤ の ひ と は か を  
 救 世 主 人 墓  
 ふ うじ て 、 へ い そ つ なんぢ の い さ ぎ よ き み を  
 封 兵 卒 爾 潔 軀  
 ま も る と き 、 なんぢ は み っ か め に ふ く か つ  
 守 時 爾 三 日 目 復 活  
 し て 、 せ か い に い の ち を た ま え り 。  
 世 界 生 命 賜  
 ゆ え に て ん ぐ ん は なんぢ の ち を ほ ど こ す の  
 故 天 軍 爾 生 命 施  
 し ゆ に よ べ り 、 ハ リ ス ト ス よ 、 こ う え い は  
 主 呼 光 榮  
 なんぢ の ふ く か つ に き し 、 こ お う え い は なんぢ  
 爾 復 活 歸 し 光 榮 爾  
 の く に に き す 、 ひ と り ひ と を い つ く し む  
 國 歸 獨 人 慈  
 し ゆ よ 、 こ う え い は なんぢ の お も ん ぱ か り に  
 主 光 榮 爾 慮  
 き す 。

【 日本の巫使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

し と と ひ と し く ど う ざ な る も の 、 ち ゆ う  
 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリスト スのえきしゃ、せい  
 實 神智 役者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい  
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう  
 満 器 我 國 光

しよおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ  
 照 者 亜使徒主教 聖

よ、なんちのぼくぐんのため、および  
 爾 羊 群 爲 及

ぜんせかいために、いのちをたもうせい  
 全世界 爲 生命 賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。  
 三者 祈 給

【 日本の亜使徒ニコライのコンダク 】

こうえいはちちとこおとせいしんにき  
 光 榮 父 子 お と 聖 神 歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが  
 成 聖 者 亜使徒 聖 我

くになんちをたびびとおよびいほうじんとうけ  
 國 爾 旅 人 及 異邦 人 受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの  
 爾 初 我 國 於 己  
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの  
 外 來 者 知  
 ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて  
 光 暖 流 爾 敵  
 きをぞくしんのことなあし、かれらにか  
 屬 神 子 爲 彼 等 神  
 みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて  
 恩 寵 與 教 會 建  
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり  
 今 此 教 會 爲 祈  
 たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん  
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾  
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ  
 呼 我 善 牧 者 慶  
 べよ。

【 復活のコンダク 第1調 】

いまもいつもよよに、アミン。  
 今 何 時 世 世  
 しゅさいよ、なんぢはかみなるによりてこう  
 主 宰 爾 神 因 光

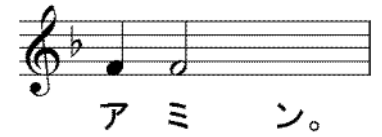
司祭) ( 黙誦： 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、  
 ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と  
 なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、  
 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行おう者を棄てずして、其救の爲に痛悔  
 を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な  
 る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者と  
 なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を  
 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と  
 を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生



しんぢょ こせい なんぢ よろこび な しよせいじん きとう よ  
神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) けだしわ かみ なんぢ せい われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ  
蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世

に、



【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
じょうせいのものよ、われらをあわれめ  
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
なるじょうせいのものよ、われらをあわれ  
めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ  
れめよ。こうえいはちちとことせいしん  
にきす、いまもいつもよよに、アミン。

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐  
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖 神 聖 勇  
 き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを  
 毅 聖 常 生 者 我 等  
 あわれめよ。  
 憐

プロキメン  
【 提綱 主日 第1調 】

司祭) 慎みて聴くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智

誦經) プロキメン、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、

しゅよ、われらなんぢをたのむがごとく、  
 主 我 等 爾 頼 如  
 なんぢのあわれみをわれらにたあれえたあま  
 爾 憐 我 等 垂 給  
 え。

誦經) 義人よ、主の爲に喜び、讚榮するは義者に適う、

しゅよ、われらなんぢをたのむがごとく、  
 主 我 等 爾 頼 如

な んぢの あわれ みをわれらにた あれえたあま  
爾 憐 我 等 垂 給  
え。

誦經) <sup>しゅ われらなんぢ たの ごと</sup> 主よ、我等爾を頼むが如く、

な んぢの あわれ みをわれらにた あれえたあま  
爾 憐 我 等 垂 給  
え。

【 アポストロス 使徒經 258 端 コロサイ書 3 章 12 節～16 節 】

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと じん たつ しょ よみ</sup> 聖使徒パウエルがコロサイ人に達する書の讀、

司祭) <sup>つつし き</sup> 謹みて聽くべし、

誦經) <sup>けいてい なんぢらかみ えらび こうむ せい あい もの じひ じんあい けんそん</sup> 兄弟よ、爾等神の選を蒙りし、聖にして愛せらるる者として、慈悲、仁愛、謙遜、

<sup>おんじゅう ごうにん き も たがい せ こと あいじよ あいゆる なんぢら</sup> 溫柔、恒忍を衣よ、若し互に責むべき事あらば、相恕し、相赦せ、ハリストスの爾等

<sup>ゆる ごと なんぢら か ごと およ これら うえ あい き こ かんび そうこう</sup> を赦しし如く、爾等も此くの如くせよ、凡そ此等の上に愛を衣よ、是れ完備の總綱なり。

<sup>かつかみ へいあん なんぢら うち つかさ なんぢら いったい おい これ め なんぢらまた</sup> 且神の平安は爾等の中に幸たるべし、爾等は一體に於て之に召されたり、爾等又

<sup>おん かん ことば ゆたか なんぢら うち お およそ ちえ もつ あいおし</sup> 恩に感ぜよ。ハリストスの言は豊に爾等の中に居るべし、凡の智慧を以て相誨え、

<sup>あいまし せいえい かしょう ぞくしん しふ もつ おんちよう よ なんぢら ころろ わ しゅ</sup> 相倣め、聖詠と歌頌と屬神の詩賦とを以て、恩寵に由りて爾等の心に和して、主

<sup>さんび</sup> を讚美せよ。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 兄弟よ、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。これらいつさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。あなたがたが召されて一体となったの

は、このためでもある。いつも感謝していなさい。キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

\*\*\*\*\*

【 アリルイヤ 主日第1調 】

司祭) <sup>なんぢ へいあん</sup> 爾に平安、

誦經) <sup>なんぢ しん</sup> 爾の神にも、

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) アリルイヤ、

アリル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、

ア リ ル イ ヤ 。

誦經) <sup>ねが わ ため あだ かえ われ しよみん したが かみ さんしょう</sup> 願わくは我が爲に仇を復し、我に諸民を従わしむる神は讃頌せられん、

アリル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、

ア リ ル イ ヤ 。

誦經) <sup>おおい すくい おう ほどこ あわれみ なんぢ あぶら もの およ そのすえ よよ</sup> 大なる救を王に施し、憐を爾の膏つけられし者ダヴィド及び其裔に世々に

<sup>た もの われなんぢ な うた</sup> 垂るる者よ、我爾の名に歌わん、

アリル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、

ア リ ル イ ヤ 。



司祭) ( 黙誦：人<sup>ひと</sup>を愛<sup>あい</sup>する主<sup>しゅ</sup>宰<sup>さい</sup>よ、我が心<sup>こころ</sup>に神<sup>かみ</sup>を知る智慧<sup>しちえ</sup>の<sup>い</sup>淨<sup>い</sup>き光<sup>き</sup>を輝<sup>ひかり</sup>かし、我が思<sup>し</sup>念<sup>ねん</sup>の目<sup>め</sup>を啓<sup>ひら</sup>きて、爾<sup>なんぢ</sup>が福<sup>ふく</sup>音<sup>いん</sup>の教<sup>おしえ</sup>を悟<sup>さと</sup>らしめ給<sup>たま</sup>え、我が衷<sup>うち</sup>に爾<sup>なんぢ</sup>の福<sup>ふく</sup>たる<sup>いましめ</sup>誠<sup>まこと</sup>を畏<sup>おそ</sup>るる<sup>おそれ</sup>畏<sup>い</sup>をも入<sup>われら</sup>れて、我等<sup>ことごと</sup>が悉<sup>にくたい</sup>く<sup>よく</sup>の肉<sup>ふ</sup>體<sup>およ</sup>の慾<sup>なんぢ</sup>を踏<sup>よろこ</sup>み、凡<sup>ところ</sup>そ爾<sup>おも</sup>の喜<sup>か</sup>ぶ<sup>おこな</sup>ぶ<sup>ぞくしん</sup>所<sup>せい</sup>を思<sup>かつ</sup>い<sup>す</sup>且<sup>いた</sup>つ<sup>たま</sup>行<sup>けだし</sup>いて、属<sup>かみ</sup>神<sup>しん</sup>の生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>を過<sup>す</sup>ぐる<sup>いた</sup>を致<sup>たま</sup>させ給<sup>けだし</sup>え、蓋<sup>かみ</sup>ハリストス神<sup>しん</sup>よ、爾<sup>なんぢ</sup>は我が<sup>わ</sup>靈<sup>たましい</sup>と體<sup>からだ</sup>との光<sup>こう</sup>照<sup>しょう</sup>なり、我等<sup>われら</sup>爾<sup>なんぢ</sup>と爾<sup>なんぢ</sup>の無<sup>むげん</sup>原<sup>ちち</sup>の父<sup>しせい</sup>と至<sup>し</sup>聖<sup>せい</sup>至<sup>し</sup>善<sup>ぜん</sup>にして生<sup>いのち</sup>命<sup>ほどこ</sup>を施<sup>なんぢ</sup>す<sup>しん</sup>爾<sup>しん</sup>の神<sup>こうえい</sup>とに光<sup>けん</sup>榮<sup>けん</sup>を獻<sup>いま</sup>ず、今<sup>いつ</sup>も何<sup>よ</sup>時<sup>よ</sup>も世<sup>よ</sup>世<sup>よ</sup>に、アミン。 )

【 エヴァンゲリオン 福音經 ルカ福音書91端 18章18~27節 】

司祭) 睿<sup>えいち</sup>智<sup>つし</sup>、肅<sup>た</sup>みて立<sup>せい</sup>て聖<sup>ふく</sup>福<sup>いん</sup>音<sup>けい</sup>經<sup>き</sup>を聴<sup>き</sup>くべし、衆<sup>しゅう</sup>人<sup>じん</sup>に平<sup>へい</sup>安<sup>あん</sup>、



司祭) ルカ傳<sup>でん</sup>の聖<sup>せい</sup>福<sup>ふく</sup>音<sup>いん</sup>經<sup>けい</sup>の讀<sup>よみ</sup>、



司祭) 謹<sup>つし</sup>みて聴<sup>き</sup>くべし、彼<sup>か</sup>の時<sup>とき</sup>或<sup>ある</sup>人<sup>ひと</sup>イイススに就<sup>つ</sup>き、彼<sup>かれ</sup>を<sup>こころ</sup>試<sup>と</sup>みて、問<sup>い</sup>いて曰<sup>ぜん</sup>えり、善<sup>し</sup>なる師<sup>し</sup>よ、

我<sup>われ</sup>永<sup>えい</sup>遠<sup>えん</sup>の生<sup>いのち</sup>命<sup>つ</sup>を嗣<sup>ため</sup>がん<sup>な</sup>爲<sup>な</sup>に何<sup>な</sup>を爲<sup>な</sup>すべきか。イイスス彼<sup>かれ</sup>に謂<sup>い</sup>えり、爾<sup>なんぢ</sup>は何<sup>なん</sup>ぞ我<sup>われ</sup>を善<sup>ぜん</sup>と  
稱<sup>とな</sup>うる、獨<sup>ひとり</sup>神<sup>かみ</sup>より外<sup>ほか</sup>に善<sup>ぜん</sup>なる者<sup>もの</sup>なし。爾<sup>なんぢ</sup>は誠<sup>いましめ</sup>を識<sup>し</sup>れり、淫<sup>いん</sup>する母<sup>なか</sup>れ、殺<sup>ころ</sup>す母<sup>なか</sup>れ、  
竊<sup>ぬす</sup>む母<sup>なか</sup>れ、妄<sup>もう</sup>證<sup>しょう</sup>する母<sup>なか</sup>れ、爾<sup>なんぢ</sup>の父<sup>ふ</sup>母<sup>ぼ</sup>を敬<sup>う</sup>え。彼<sup>かれ</sup>曰<sup>い</sup>えり、我<sup>われ</sup>幼<sup>い</sup>きより皆<sup>みな</sup>之<sup>これ</sup>を守<sup>まも</sup>れ  
り。イイスス之<sup>これ</sup>を聞<sup>き</sup>きて、彼<sup>かれ</sup>に謂<sup>い</sup>えり、爾<sup>なんぢ</sup>に猶<sup>なほ</sup>一<sup>ひと</sup>の足<sup>あし</sup>らざる事<sup>こと</sup>あり、悉<sup>ことごと</sup>く爾<sup>なんぢ</sup>の所<sup>しよ</sup>有<sup>ゆう</sup>  
を售<sup>う</sup>りて、貧<sup>ひん</sup>者<sup>しゃ</sup>に施<sup>ほどこ</sup>せ、然<sup>しか</sup>らば財<sup>たから</sup>を天<sup>てん</sup>に有<sup>たも</sup>たん、且<sup>かつ</sup>來<sup>きた</sup>りて我<sup>われ</sup>に從<sup>したが</sup>え。彼<sup>かれ</sup>之<sup>これ</sup>を聞<sup>き</sup>  
て、甚<sup>はなは</sup>だうれ<sup>れ</sup>たり、巨<sup>おおい</sup>に富<sup>と</sup>める故<sup>ゆえ</sup>なり。イイスス其<sup>その</sup>甚<sup>はなは</sup>だうれ<sup>れ</sup>たるを<sup>み</sup>見<sup>い</sup>て曰<sup>とみ</sup>えり、富<sup>たも</sup>を有<sup>たも</sup>  
つ者<sup>もの</sup>の神<sup>かみ</sup>の國<sup>くに</sup>に入<sup>い</sup>るは難<sup>かた</sup>き哉<sup>かな</sup>。蓋<sup>けだし</sup>駱<sup>らく</sup>駝<sup>だ</sup>が針<sup>はり</sup>の孔<sup>あな</sup>を穿<sup>とお</sup>るは、富<sup>と</sup>める者<sup>もの</sup>が神<sup>かみ</sup>の國<sup>くに</sup>に入<sup>い</sup>る

やす これ き ものい しか だれ よ すく きれい ひと よく ところ  
より易し。之を聞きし者曰えり、然らば誰か能く救われん。彼曰えり、人には能せざる所、

かみ よく  
神には能すなり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) ある役人がイエスに尋ねた、「よき師よ、何をしたら永遠の生命が受けられましようか」。イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。いましめはあなたの知っているとおりで、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え』」。すると彼は言った、「それらのことはみな、小さい時から守っております」。イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい」。彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であったからである。イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われることができるのですか」と尋ねると、イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 光 榮  
はなんぢにきす。  
爾 歸

※聖体礼儀③ (金口イオアン聖体礼儀) へ